

# 国語(現代文)

東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部 (文系) (前期) 1/4

## <総括>

出題数 現代文 2題・古文 1題・漢文 1題 試験時間 150分

論理の進行を追いつつ、全体を俯瞰する高度な読解力、読み取った内容を簡潔にまとめる記述力が試される。

## <本文分析>

大問番号	一
出典 (作者)	『境界線の政治学』(杉田敦)
頻出度合 ・的中等	しばしば見かける著書・著者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問一	書き取り	標準	全て基本的なもの。
		問二	論述	標準	「区別」と「同質化」がここでの<政策>の要点。
		問三	論述	やや難	「餌を与える」「人口を増やす」が<動物飼育術>。 字数制限が厳しい。
		問四	論述	難	「第一に」「第二に」と明示してある。 前者は<契約>について、後者は<権力>について。
		問五	論述	やや難	「差異」「福祉」「国力」の三点。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

全体の正確な要約を作成する。本格的な論文は細かな文脈だけでなく、全体の構成を把握できてこそ、明晰に読解できる。また、簡潔に記述する力も、要約作成を繰り返す中で培われる。

# 国語(現代文)

東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部 (文系) (前期) 2/4

## <総括>

出題数 現代文 2題・古文 1題・漢文 1題 試験時間 150分

文章自体、難解なわけではないが、行間に豊かなものがある。  
文学的文章に接してきた経験の豊かさが問われている。

## <本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『向田邦子との二十年』(久世光彦)
頻出度合 ・的中等	稀だと思われる。
分量 前年比較	分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問一	記述	標準	「文脈に即して」に留意。
		問二	論述	やや難	「万年筆」だけでなく、それとこの二人の関係を。
		問三	論述	やや難	傍線部直前の二つの文。
		問四	論述	難	「本文全体」から「おしゃれ」の意味合いを。
		問五	論述	難	「頭の蠅を追う」とは、「他人のことではなく自分のことを」という方向。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

文学的な文章に触れる機会を設ける。一つの表現の含意や示唆している事柄等を考える、繊細な語彙力が問われている。

# 国語(古文)

東北大学 文学部 教育学部 法学部 経済学部 (文系) (前期) 3/4

## <総括>

出題数 現代文 2題・古文 1題・漢文 1題 試験時間 150分

本文は平易だが、内容を正確に読解させた上で、本文で表現されていることを指定された文字数内にまとめる力を問う問題。古文に対する読解力だけでなく、読み解いて考えたことをまとめる表現力と文章力も含めた国語の総合力を問う良問。

## <本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『一休ばなし』(仮名草子)
頻出度合 ・的中等	近年の使用はまれ。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	物語 (仮名草子)	問一	記述	易	基本単語の組み合わせによる短文の口語訳だが、「文脈に即し」という指定に留意する。 「たび」「未然形+ば」「侍る」などの基本語句を正確に訳しながら、適宜言葉を補って解答を作る。 傍線部の直前のカギカッコ内を正確に読解し、その内容を指定文字数でまとめる。 傍線部の後に続く「教へける者」のセリフの内容を読解し、指定文字内にまとめる。 本文全体の内容を踏まえてまとめよという指定を踏まえて、一休と秘薬を相伝してきた者とのやりとりを正確に読解して字数内にまとめる。
		問二	記述	やや易	
		問三	記述	標準	
		問四	記述	標準	
		問五	記述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

本文は平易だが、基本的な単語と文法を理解していないと解答作成はできない。古文の基本的な学習を徹底し、正確な読解力を身につけることが必要。さらに、指定された字数内にまとめる力も問われているため、考えたこと、読み解いたことを表現する力を養う必要もある。基本的な単語と文法の学習の上で読解力を身につけ、表現力を培う学習が求められる。

<総括>

出題数	現代文 題・古文 題・漢文 題	試験時間	分
-----	-----------------	------	---

本文は二つの部分に分かれ、前半では「勇」「怯」という性質に応じ、いかにすれば人に谷を跳び越えさせられるのかを述べる。ただし、前半は比喻であり、後半では臣下が君主に対して諫言しやすい環境をどのように現出させるのかという本題について意見が展開される。問(二)(三)は基本的な知識で解けるが、問(一)(四)(五)では問題文の内容から読解したことを適宜解答に盛り込む必要がある。なお、(注)が附された「淵谷」の意味は「深い谷」であり、「康莊」は「平坦」であるという意味を注記すべきではなかったか。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	北宋・蘇洵「諫論」
頻出度合 ・的中等	2012年度 東北大入試オープンで出題歴あり。
分量 前年比較	分量 (減少・ <b>やや減少</b> ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・ <b>やや易化</b> ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	論説	(一)	意味	標準	傍線の箇所より前の内容を踏まえ具体的な表現を心がける必要がある。
		(二)	口語訳	標準	「跳而超」の目的語を補い、「与」が動詞であることに注意し、「不然」「否」を具体化する必要がある。
		(三)	書き下し	標準	(イ)「猶」の用法と「未能」の訓みに注意する。 (ウ)二重否定がポイントである。
		(四)	内容説明	標準	「之」を具体化し、「要」「驅」を現代日本語として自然な表現にすること。
		(五)	理由説明	標準	「三代」に関連する「先王」以下の内容をまとめる必要がある。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

特定の出典にこだわらず、多様なジャンルに対応できる総合的な学力を涵養すべきことは例年と変わらない。今回の問(二)(三)からも窺えるように、重要語・基本句形など漢文の基礎的知識を修得しておくことが前提であるが、加えて設問箇所の前後のみならず、問題文全体の構造を的確に把握する読解力を着実に養っておく必要がある。なお、今回は問(四)で30字、問(五)で70字の解答を書き上げねばならなかったわけだが、このように字数の多寡に関わりなく、読解できた内容を適宜解答に盛り込みつつ、精密な解答を完成させる訓練を積んでおかなければならない。なお、昨年度に比べ問題文の文字数はやや減じたが、今回も260字を超える長文が出題されており、粘り強く長文を読み解いていく姿勢は今後も求められるだろう。